

令和6年度 多摩市立連光寺小学校 学校評価書

学校教育目標	
◎ 考えてやりぬく子 ○ 明るく思いやりのある子 ○ たくましくじょうぶな子	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
(1)児童が「もっと伸びたい」と実感できる学校 (2)保護者・地域の方にとって、安全・安心で信頼できる学校 (3)教職員にとって、やりがいをもって協働できる学校	
目指す子供像	目指す教師像
(1) 主体的に学び、学んだ知見が SDGs の達成へ寄与していることを実感する児童 (2)思いやりと社会性をもち、実践する児童 (3)自己防衛力をもち、心身の逞しさを身に付ける児童	(1)SDGs 達成に向けた人材育成を図る教師 (2)児童理解を基に、家庭や地域と連携して、誰もが生き生きと生活する社会の実現を図る教師 (3)困難に立ち向かい、児童に課題克服させていく教師

I 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1)確かな学力の育成

重点目標	① 学びに向かう学習意欲の向上と基礎学力力の定着 ② 読書指導を充実させ、活字に親しむことで言語能力の向上を図る ③ アントレプレナーシップの視点を生かした人材育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員 の意見
学習活動の工夫を行い、学習意欲と学力の向上で自己肯定感を高める。児童評価 90%。	3	カフトや少人数指導の人数、個別の指導や課題等の工夫を行えた。児童評価は 77%。教員評価は 90%。	B	・改善策を実施すれば、さらに良い。教員の努力に感謝します。 ・活字離れに対するいろいろな工夫がみられる。 ・地域との連携もあり、理解と協力のもと様々な活動を実施できている。 ・子供たちから将来の環境に対する意識の高さを感じます。
貸し出し冊数の増大と読書の好きな児童の育成。自主学習等での言語力向上。児童評価80%。	4	貸出冊数は低学年 15%増。時数確保の成果有。マンガ含む活字に触れる機会を図る。自主学習履行率上昇。児童評価 76%。	A	
アントレプレナーシップ教育の精神を生かした授業実践による主体性をもった人材の育成。教員・児童評価 80%。	3	校内研究で推進。学習活動で将来像の視点を重視し情動を育んだ。引き続き研究を重ねる。教員・児童評価 86%・73%。	A	
評価のまとめ	・授業指導の工夫、授業グループ人数の工夫、個別指導の工夫等、基礎学力力向上に向けた取り組みは、効果検証に基づき緩めることなく積み重ねていく。 ・読書から活字への転換を進め、書物を手に取る機会を増やす方策を講じる。 ・アントレプレナーシップ教育の浸透はまだ十分ではない。児童の将来の姿を児童自らが描くことのできるよう、研究を進めていく。			

【評価について】

自己評価			学校関係者評価	
評価	達成状況	成果指標	評価	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2)豊かな心の育成

重点目標	① 基本的生活習慣の確立 ② 他者理解力の育成 ③ 道徳科の授業力向上と児童の人権意識の向上、いじめの防止			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員 の意見
校外外でのあいさつの励行。 登下校の規律の徹底。 聞く姿勢の習得。 教員評価 80%。	3	朝礼時の報告等では温かな対応 ができるが、日常のあいさつや規 律は継続の必要有。標語さしみち ゃんを設定。生活文化醸成の活 動を次年度実施予定。教員評価 57%。行動教員評価 95%。	A	・分析に基づく改善策を実 施していくとよい。 ・生活文化という当たり前の ことができていない、もしくは 時代の変化で変わってきて いることを、もう一度考え直 す素晴らしい取り組みだと 思います。
生き物の飼育を通した、他者理 解力、優しさと思いやりの育成。 教員評価 90%。	4	2 年生、飼育委員会を中心に日 常的な触れ合い実施。地域とも 連携。思いやり教員評価 90%。	A	・歩道橋や下り坂など、子供 たちはマナーを守って歩行し ていて安心できる。
毎月の校内研修会により「考 え、議論する道徳」の授業力を 向上。児童の人権尊重意識向 上、及びいじめの防止。 教員・児童評価 85%。	4	道徳授業は各々の思いを交流さ せ他者理解に繋げる授業形態が できてきた。未解決のいじめは 0。 教員・児童評価 90%・79%	A	・動物の飼育を通じて、豊か な心の育成が図られていて 素晴らしい。
評価のまとめ	・あいさつと生活規律については継続して取り組むことが必要。次年度、生活文化 の洗い出しを教員・児童で行い、将来にわたり実践していこうとする共通認識を形 成し、実践していく。 ・動物飼育による他者理解力の向上は成果が見られる。地域にも協力をいただき ながら、今や貴重な動物飼育を継続していく。 ・道徳科の授業力、児童の意見交換による共感や共鳴、変心は向上してきている。			

(3)健やかな体の育成

重点目標	① 危機管理能力の向上と自己防衛力の育成 ② 心と体の健康指導の充実 ③ オリパラ教育の継承、学校 2020 レガシーの充実			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員 の意見
ネットモラルを重点的に指導し共有化。セーフティ教室で全学年が指導。講演会実施。児童の自己防衛力向上。 教員評価 90%。	3	あらゆる機会をとらえて児童に啓発、指導。保護者会や学校だより、HP で保護者にも発信。大きなトラブルは生じていないが今後も継続。教員評価 72%	A	・ネットモラルの指導継続をお願いしたい。犯罪被害防止に努めてもらいたい。 ・地域の一員として社会で生きていくことを自覚するの により取り組みと思います。
行事も教育活動の柱と意識し、児童の取り組みの強化と振り返りによるくじけない心を育成。 児童評価 90%。	4	行事、校外学習は大切にし全校で取り組んだ。児童の振り返りも細かく実行。児童評価 84%。	A	・HP で朝ごみを拾って登校した児童を拝見しています。
オリパラ教育を継承したボランティア・マインドの活動の継続。 学校 2020 レガシーとしての環境保全活動の実践。	4	ごみ拾い活動や川のごみ調べ、フードロス等、ボランティアと環境保全の意識を高めた。保護者評価 90%。	A	・現状の活動と取り組みを継続し、さらなる成果が期待される。
評価のまとめ	・SNSトラブルは本校の最重要課題である。大きな事故は生じておらず取り組みの成果と考える。保護者にも啓発の機会を図り続けた。 ・行事ごとの真摯な取り組みと振り返りは継続していく。自己の活動のメタ認知を促し、自己肯定感や自己有用感を高める。キャリアノートへも保管した。 ・環境保全活動は、積極的にPRを継続し、地域活動とも強調して実践を続ける。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	① 徹底した情報公開による教育活動の協働 ② 新しい時代に向けた地域学校協働本部の活動 ③ 放課後子ども教室の運営協力による児童の居場所確保			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員の意見
情報提供を徹底し、地域と家庭との教育活動の協働を実践。 保護者評価 90%。	4	学校運営の核として意識して実施。情報発信に対するよい反応が増えた。保護者評価 99%。	A	・地域の特性を活かし、情報共有、発信を続けているので連携がとれている。 ・今後も地域の一員として、あらゆる機会を利用して教育活動に協力していきたい。
地域学校協働本部を活用した新しい時代の学校・保護者・地域の連携・協力。開校 50 周年行事の実施。 学校運営協議会評価 90%。	4	地域学校協働本部により教育活動や地域活動のボランティア協力を得た。協働本部委員の会議も参集実施し、今後の計画を検討した。周年式典は盛況実施。	A	
市役所や委託先と運営に協力し、放課後子ども教室が安全・安心な児童の居場所の一つとなるようにする。	4	夏休みの開催やイベント実施に、最大限協力した。情報も共有でき、児童の居場所のみならず教育機関の一つとなっている。	A	
評価のまとめ	・教育活動の情報発信は、十分に達成できた。「よかった」との旨のバックもあり、双方向で活かされてきている。 ・PTA活動の一部を地域学校協働本部に移管していく道筋ができた。新しい時代の保護者連携を引き続き模索、実践していく。 ・放課後子ども教室の夏休み開催は無事実行できた。今後も協力をしていく。また、公園緑地課との協働で大谷戸公園のインクルーシブ遊具を児童が選定した。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

【考えてやりぬく子の育成】 ・交換授業や外部指導者、カフート、自主学習、ICT機器の活用、オンライン授業、個別課題、読書時間確保、活字に触れる取り組み等の施策を継続して進め、複合的に推進し、学習意欲と基礎的学力、応用力の向上を図る。 ・総合的な学習においては、社会情動を行動に引き上げるためのアントレプレナーシップ教育を小学校教育のまとめの段階として意識し、主体性のある人間形成をさらに進めていく。
【明るく思いやりのある子の育成】 ・動物飼育について児童、教員、保護者、地域、大学と多くの方に継続して関わっていただき、児童の他者理解力をさらに高めていくことで、円滑な社会性を身に付けさせていく。 ・道徳科の授業力向上の取り組み、議論する道徳科の授業の推進は継続し、定着させることで、道徳科の授業で児童が十分に思いを吐露でき、安心感を得られる時間となるようにしていく。
【たくましくじょうぶな子の育成】 ・ICT機器やSNSなどのツールは、児童にとっては敷居が低くなってきている。一発アウトである流失の現状や闇バイトなどへの危険性も含め、あらゆる機会を通じて徹底して注意喚起を続けていく。 ・ボランティア・マインドと環境保全活動を融合させた取り組みを進め、地域貢献から自己有用感を育ていく。
【家庭や地域との連携】 ・教育活動の情報公開や発信、協働の呼びかけを積極的に行い、理解と協力を得るための最大のツールであることを意識し、今後も継続し、児童の成長に寄与させていく。地域連携の情報発信はとくに必須である。

以上のとおり報告いたします。

令和 7 年 2 月 22 日

多摩市立連光寺小学校 校長 関 口 寿 也 公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立連光寺小学校

